

第5学年国語科学習指導案

研究授業 1

児童 5学年 男4名 女6名 計10名

指導者 中野 久仁子

1 単元名 人物の考え方や生き方をとらえ、朗読劇に表そう

主要教材 「大造じいさんとガン」

補助教材 「わらぐつの中の神様」 自作脚本

「カガミジン」 (棕鳩十)

2 単元の目標

国語への 関心・意欲・態度	場面の描写や人物の心情をとらえて文章を読もうとしている。
読むこと	登場人物の生き方や考え方を読み取り、自分の考えをまとめることができる。 (読エ) 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすることができる。(読ア)
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。 (言イ (カ))

3 単元の中心となる表現活動

学習発表会に向けて、「大造じいさんとガン」の脚本を作り朗読劇をする。

4 単元の評価基準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
おおむね満足 できる 状況	朗読劇を発表するという目的をもち、登場人物の考え方をとらえて朗読劇に表現しようとしている。	・登場人物の生き方や考え方を読み取り、自分の考えをまとめようとしている。 ・自分の思いや考えが伝わるように朗読の工夫をしている。	語感や言葉の使い方について関心を持ち、朗読に生かそうとしている。

5 単元について

(1) 児童について

児童は、4年生の「白いぼうし」「一つの花」の学習で、登場人物の心情や人物関係を考えたり、文章の構造をとらえたりする学習をしてきている。また、4月の「新しい友達」の学習では、登場人物の心情に寄り添いながら、その変化にそって物語を読み、自分なりの感想をもつという活動をしてきた。このような活動を通して、人物の心情を読み取る力がついてきている。

朗読や音読で表現することについては、毎日の音読や音読集会の発表など、継続的に取り組んでいることによりすらすらと読む力はついてきているが、情景が伝わるように変化をつけて読んだり、人物の心情を表現したりして朗読することはまだ十分でない。また、自信のなさや恥ずかしさから声が小さくなったり、聞き手を意識することができない児童もいる。

学習発表会での朗読という目的を設定して、自分なりに解釈したことや、感動したことが聞き手に十分伝わるように、生き生きと表現できる力を育てたいと思い、この単元を設定した。

9月下旬にとったアンケート結果は、次の通りである。

①物語の読み取りが好きか	とても好き 2名	好き 6名	あまり好きではない 2名	好きではない 0名
②物語のあらすじをまとめることができるか。	よくできる 1名	できる 7名	あまりできない 2名	できない 0名
③何を手掛かりにして人物の心情を読み取ればいいかが分かるか。	よく分かる 2名	分かる 7名	あまり分からない 1名	分からない 0名
④音読や朗読をすることは好きか	とても好き 4名	好き 6名	あまり好きではない 0名	好きではない 0名
⑤劇を演じることは好きか。	とても好き 7名	好き 3名	あまり好きではない 0名	好きではない 0名

アンケート結果から、物語の読みやあらすじをまとめること、また、音読・朗読についても「好き」と答える児童が多く、意欲的な面がみられる。劇を演じることについては、例年5・6年生になると学習発表会で劇を発表するので、前々から楽しみに思っていることもあり、「とても好き」と答える児童が多かった。この意欲が持続するように、児童の考えや工夫が生きるような学習活動を設定したい。

(2) 教材について

第5学年の「読むこと」の指導目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。本教材では、指導事項(エ)「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述についての自分の考えをまとめること。」を主たる指導事項とする。文学的な文章を読むことのよさは、優れた叙述を味わったり、書き手の思考に即して読んだりすることで、ものの見方や考え方が広がり、自分の考えも深められることにある。

主要教材「大造じいさんとガン」は、狩人の「大造じいさん」とガンの頭領「残雪」との間に繰り広げられる生存をかけた厳しい闘いと、好敵手「残雪」への大造じいさんの素直な感動が描かれている。作品は大きく「前書き」と「本文」に分けられる。「前書き」では、長年培われた狩人の知恵と経験をもつ人間として大造じいさんが描かれている。その道何十年、一つのことに熱中し、人生を賭けてきた人の持つ魅力、また、この物語の成立の背景が味わい深く語られ、物語の世界に自然と引き込まれていく。「本文」は、一年間という区切りごとに一つずつのエピソードを配し、「1」から「4」に分けられている。出来事が次の年の伏線として設定され、テンポよく積み上げられている。

大造じいさんの行動を写す細かな描写と、大造じいさんの心理を絶妙に描き出す巧みな手法を読み味わい、大造じいさんの心情の変化や、狩人としての生き方について思いをはせることができると考えられる。また、「大造じいさんとガン」を人物の心情に即して読みながら朗読劇をすることで、自ら考え、豊かに表現する力をつけることができる教材である。

補助教材「わらぐつの中の神様」の脚本は、昨年度の5年生が学習発表会で取り組んだものである。児童に脚本を読ませ、劇の実際を見せることで、脚本作りに必要なことは何か、何を読み取り、考えていけばいいかという見通しを持たせたい。「カガミジシ」は狩人源助じいがイノシシのカガミジシを捕らえようとする話であり、狩人のしきたり、おきてなどが詳しく描かれている。この本を読み聞かせることで、児童が大造じいさんの生き方を考えたり、残雪との関わりを読み取ったりしていくための補助知識としたい。

(3) 指導について

本単元では、人物の考え方や生き方について、主人公の大造じいさんの心情の変化を中心にして読み取り、その人物像をとらえて朗読劇に表現するという目的で学習を行う。

「見通す」過程では、昨年度の「わらぐつの中の神様」の朗読劇の脚本やビデオを見て、劇を作るた

めに必要なことは何かについて話し合い、読みの観点をつかむ。さらに椋鳩十の他作品の中から、人間と動物との関わり合いのある作品を読み、狩人の仕事や、狩人と獲物との関わり合いなどを話し合う。同じ椋鳩十作品の「大造じいさんとガン」を読み、人物の生き方や考え方について読み取りながら、学習発表会で朗読劇をするための脚本を作っていくという見通しをもたせたい。

「確かめる」過程では、「大造じいさんとガン」を読み、場面の情景、大造じいさんと残雪の関わり、大造じいさんの考え方の変容について、読み深めていく。【文学的な文章教材読みのものさし】では、⑦話の中で大きく変わったこと（クライマックス）⑧お話の図（構造曲線）⑩声に出して言いたい言葉・文を扱い、物語の全体をとらえて、朗読劇に生かす読みをさせていきたい。【読みの視点】では、登場人物の相互関係、心情、場面の描写、人物像を扱う。大造じいさんと残雪の関係や優れた場面の情景描写を味わわせながら人物像をまとめていきたい。はじめに「前書き」を読んで物語の場面設定をとらえ、囲炉裏端にいる狩人仲間になったつもりで大造じいさんの人物像をまとめる。次に「本文」を読み、大造じいさんの行動や会話、残雪との関わり、場面の情景などから、大造じいさんの心情や人物像を読み取っていく。児童の読みは、「狩人仲間」の会話を通してまとめていき、大造じいさんの考え方の変容をとらえるための材料とする。「4の場面」では、「1」～「3」の場面で読み取ってきた大造じいさんの心情から、大造じいさんの残雪に対する考え方の変容をとらえ、なぜ残雪を「晴れ晴れとした気持ち」で見送ることができたのかを考えさせたい。さらに、全文を振り返って大造じいさんの「狩人」としての生き方や人物像をとらえ、狩人仲間の感想としてまとめる。この場面が「前書き」の「囲炉裏端」の場面に重なって、話が終結するという朗読劇上の場面設定も大事にしたい。

「表現する」過程では、劇の脚本作りを行う。「確かめる」過程で考えてきた「狩人仲間」の会話をどの場面にどのように入れるか、読みの分担、背景や音響などの効果についても考えながら、脚本作りを進める。また、読み取った内容を伝えるための朗読の工夫として、抑揚や間の取り方、声の質などを考え、練習をする。

「広げる」過程では、学級でリハーサルをして互いに評価し合い、発表に向けての最終チェックをする。発表会後は、観客からの感想という形で評価をもらい、自分たちの表現の振り返りとしてほしい。

この単元で、「五つの言語意識」は以下のようにとらえた。

- ・相手意識…全校児童、家庭、地域の方々に
- ・目的意識…人物の考え方や生き方について感じたことを伝えるために
- ・場面意識…学習発表会で
- ・方法意識…「狩人仲間」の会話を入れた劇の脚本を作り朗読劇を発表する
- ・評価意識…発表会後に児童や家庭、地域の方々から感想をいただく

6 学習計画（15時間扱い）

過程	学習活動 学習内容（・）	評価規準		
		国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
見 通 す 2	1 単元のねらいを知り、見通しを持つ。 ・「わらぐつの中の神様」の脚本を読んだり、ビデオを観たりしながら、朗読劇をするために必要な読みの観点をつかむ。（1）	・朗読劇をするという目的を持ち、学習の見通しをもっている。（発言・観察）	・「わらぐつの中の神様」の脚本から、朗読劇に必要な読みの観点をつかむことができている。	
	・椋鳩十の他作品を読み、狩人の仕事について話し合う。 ・「大造じいさんとガン」を朗読劇に表すという見通しを持ち、学習計画を立てる。（1）	・学習の見通しが持っている。（ノート・観察）	・狩人の仕事について概要をつかみ、「大造じいさんとガン」を読み進める計画を立てることができている。	

確 か め る 7	2 主要教材を目的を持って読みとる。 ・「前書き」→「本文①②③④」という文章構成をとらえる。 ・「前書き」を読んで場面設定をとらえ、「狩人仲間」からみた大造じいさんの人物像をまとめる。(1)		・文章構成をとらえ、「前書き」から考えられる大造じいさんの人物像をまとめることができる。 (発言・ノート)	
	・「本文」を読み、登場人物、場面設定をとらえる。 ・お話の図(構造曲線)を考え、全体像をつかむ。(2)		・「本文」を読み、登場人物や場面設定をとらえながら、お話の図を考えることができる。(発言・ノート)	
	・「1年目」「2年目」の場面を読み、大造じいさんの残雪に対する考え方や狩人としての生き方を考え、「狩人仲間」の感想としてまとめる。(2)		・大造じいさんの残雪に対する考え方や狩人としての生き方を「狩人仲間」として話し合い、感想をまとめることができる。(発言・ノート)	
	・「3年目」の場面(クライマックス)を読み、大造じいさんの残雪に対する考え方の変化や狩人としての生き方を考え、「狩人仲間」の感想としてまとめる。(1)		・大造じいさんの残雪に対する考え方や狩人としての生き方を「狩人仲間」として話し合い、感想をまとめることができる。(発言・ノート)	
	・「4年目」の場面を読み、残雪に対するこれまでの考え方の変化をとらえて、狩人としての生き方や人物像について考え、「前書き」部分に対応させて「狩人仲間」の感想としてまとめる。(本時)		・大造じいさんの残雪に対する考え方の変化から、狩人としての生き方や人物像について考え、「狩人仲間」の感想としてまとめることができる。(発言・ノート)	
表 現 す る 5	3 朗読劇の脚本を作る。 ・「狩人仲間」の場面を決めて会話を考える。 ・背景や音響を加え、朗読劇の脚本を作る。(3)	・朗読劇にするために、進んで脚本を考えている。(観察)	・「狩人仲間」の場面を入れて、脚本を考えることができる。 ・背景や照明について考え、脚本作りをすることができる。(ワークシート)	・語感や言葉の使い方について関心を持ち、朗読に生かそうとしている。
	4 朗読の練習をする。 ・大造じいさんの心情が伝わるように読みの工夫をする。 ・抑揚や間の取り方、声の質などを考えながら朗読練習をする。(2)	・相手に伝わるように朗読しようとしている。(観察)	・どのように読めば心情を伝えられるか考えながら朗読の練習をしている。 ・抑揚や間の取り方、声の質などに気をつけて朗読の練習をしている。(観察)	・語感や言葉の使い方について関心を持ち、朗読に生かそうとしている。
広 げ る 1	5 リハーサルをし、評価し合う。 ・学級で発表のリハーサルをし、評価したり最終チェックをしたりする。(1)	・意欲的にリハーサルを行い、よりよいものを作ろうとしている。(観察)	・相手に伝わるように発表をし、表現の振り返りをしている。(観察・ワークシート)	

7 本時の指導

(1) ねらい 大造じいさんの残雪に対する考え方の変化や狩人としての生き方について考え、狩人仲間の感想としてまとめることができる。

(2) 指導について

本時で身につけたい力は、「登場人物の心情の変化から、その生き方や人物像について、自分の考えをまとめる力」である。

「導入」では、これまでの場面を振り返り、大造じいさんの残雪に対する考え方がどのように変化したかを読み取るという見通しを持たせる。 (仮説1-③)

「展開」では、「4」の場面での大造じいさんの心情から、大造じいさんの残雪に対する考え方の変容をとらえ、なぜ残雪を「晴れ晴れとした気持ち」で見送ることができたのかを考えさせる。さらに、全文を振り返って大造じいさんの狩人としての生き方や人物像をとらえ、「狩人仲間」の感想としてまとめる。(仮説2-③)

「終末」では、大造じいさんのセリフを、心情を考えながら朗読する

(3) 展開

段階時	学習活動	学習内容 (・)	支援 (・)	【評価規準】
導入 (3)	1 前時の想起をする。 2 本時の学習課題を確認する。 3 学習の見通しを立てる。 ・場面の確認→囲炉裏端のその後の会話を考えること ・読みの視点を確認する。 残雪に対する考え方の変化 大造じいさんの心情、人物像	大造じいさんの残雪に対する考え方の変化を読み取り、狩人としての生き方や人物像を考えて「狩人仲間」の言葉で表そう。	・大造じいさんの残雪に対する考え方や、人物像について読み取ってきたことを振り返る。 ・学習活動の流れを確認し、目的を持って、読み取っていくことを確認する。	
展開	4 学習課題を解決する。 ・学習場面 (4の場面) を音読する。 ・大造じいさんの心情から、残雪に対する考え方をとらえる。(サイドライン、書き込み) ・残雪に対する考え方の変化から、大造じいさんの狩人としての生き方について、話し合う。 ・「前書き」部分でとらえていた大造じいさんの人物像と比較して、大造じいさんの狩人としての生き方や人物像を考え、グループで交流する。		*ガンの英雄 えらぶつ *晴れ晴れとした顔つき ・[1]～[3]の場面で大造じいさんが残雪をどのようにとらえていたかを掲示で振り返る。 *たかが鳥→ただの鳥とは思えない→えらぶつ、英雄 *狩人としての意地 *大造じいさんの成長	
開			・自分の考えをまとめ、グループ内で意見交流をする。よいと思った意見は青で書き加える。 ・「前書き」部分で、とらえていた大造じいさんの人物像から、どのように見方が変わったか考えさせる。	

展 開 (37)	<p>◎ずっとねらっていた残雪を、正々堂々と戦うために放してやった。</p> <p>◎狩人としての意地を感じるね。</p> <p>◎たくさんの経験を持ったじいさんなんだな。</p> <p>◎計り知れない知識を持っている。</p>	<p>【評価】 大造じいさんの残雪に対する考え方の変化から、狩人としての生き方や人物像について考え、狩人仲間の言葉でまとめることができる。</p> <p>A 大造じいさんの考え方の変化から、狩人としての生き方をとらえ、「前書き」でとらえた人物像と比較して、書くことができています。</p> <p>B 大造じいさんの考え方の変化から、狩人としての生き方をとらえ、狩人仲間の言葉で書くことができています。</p> <p>【支援】 教室掲示を見て、話の流れをつかませ、考えの変化を読み取らせる。</p>
	<p>・話し合ったことをもとに、まとめを書く。</p> <p>楽しい話をしてくれるじいさんと思っていたが、狩人としておれたちが計り知れないほどたくさんの経験があるんだな。獲物と真正面から堂々と戦おうとする態度は尊敬できるな。</p> <p>・まとめを発表する。</p>	
終 末 (5)	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>・学習の振り返りをする。 残雪を見送る場面を音読する。(練習→指名)</p> <p>・次時の学習の見通しを持つ。</p>	

8 板書計画

『前書き』

大造じいさんの残雪に対する考え方の変化を読み取り、狩人としての生き方や人物像を考えて「狩人仲間」の言葉で表そう。

残雪に対する考え

『一年目』
いまいまして
たかが鳥

『二年目』
目にも見せて
「ううん」となる

『三年目』
頭領らしい堂々とした態度
ただの鳥とは思えない

『四年目』春になると
ガンの英雄
おまえみたいならぶつ
ひきょうなやり方で
やっつけたかあない。
晴れ晴れとした顔つき

『いろいろたのその後』

まとめ

楽しい話をしてくれるじいさんと思っていたが、狩人としておれたちが計り知れないほどたくさんの経験があるんだな。獲物と真正面から堂々と戦おうとする態度は尊敬できる。もっといろいろ教えてほしいな。

大造じいさんとガン

椋鳩十

```

graph TD
    A[狩人としての生き方] --> B[獲物は獲物 作戦失敗]
    B --> C[続けて失敗 次々としかけ]
    C --> D[打てるけど打たない 気持ちの変化 相手を認める]
    D --> E[狩人としての成長 (残雪との戦いの中で)]
    E --- F[獲物であるがライバル ただの獲物ではない 正々堂々と戦いたい 狩人としての意地]
    E --- G[友情 約束 自信]
  
```

大造じいさんとガン

椋 鳩十

いんすばた

七十二才 こしひとつ曲がっていない
元気な老かりゆうど 血管のふくれたがんじょうな手
話し上手 それからそれと愉快な狩りの話

大造じいさんの人物像

先輩のかりゆうど
話し上手で、楽しい人
狩りが上手な人

残雪に対する考え

一年目

いまましい
たかが鳥
どうしてなかなかたいたちえ

ちよつとしたことで大喜び
作戦は、すぐに見破られる
残雪をただの鳥としてしか見ていない

二年目

今年こそは、目にももの見せてくる
またしてもしてやられて
「ううん。」とうなって

作戦は続けて失敗
甘く考えていた

三年目

クライマックス
じいさんの気が
持ちが大きく
変化

なにを思ったかふたたびじゆう
を下ろす
頭領らしい堂々たる姿
頭領としてのいげんをきづつけ
まいとする態度
強く心を打たれて、ただの鳥に
対しているような気がしない

残雪に対して気持ちが大きく
変化
ただの獲物ではなく、自分と
対等の生き物
堂々とした態度に、頭が下がる
思い

四年目

ガンの英雄
おまえみたいならぶつ
晴れ晴れとした顔つき

ガンの英雄として認める
正々堂々と戦いたい
友情に似た気持ち

大造じいさんが若いころの、狩りの話(残雪との戦い)

いんすばた

大先輩 たくさんさんの経験
狩人として尊敬できる 狩人のおきて、しきたりを守り
獲物に対していつも真剣 相手を認め、正々堂々と戦おうとする態度

残雪との戦いの中で狩人として成長する大造じいさん

